

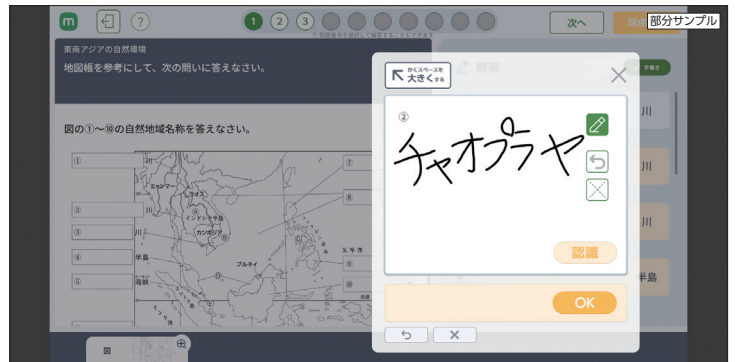
総合科目での基礎定着には

『デジタル準拠ノート』(地理総合・歴史総合・公共)

■ 生徒は自動採点と復習機能で効率的に学習を進めることができます

生徒は Chromebook や iPad などの学習者用端末で教科書準拠問題に取り組み、先生はその結果や進捗を Web 上で確認できるクラウドサービスです。解答は自動採点され、間違った問題を解きなおす復習機能もあるため、生徒自身が自分の進捗で学習を進められます。

自動採点ですぐに結果が分かるので「正答率 100% になるまで解きなおすぞ！」など生徒のやる気につながります。「基礎知識の定着」を目的とした『準拠ノート』の性質に、クラウドサービスだからこそ「何度も取り組める」という特徴がマッチし、『デジタル準拠ノート』を通じた新たな学習習慣が広がっています。



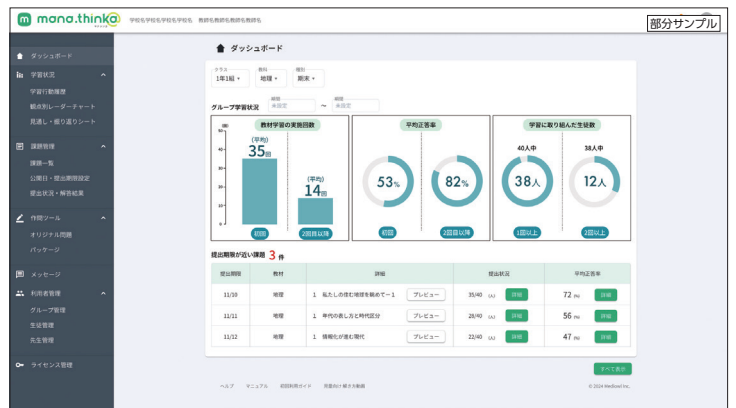
『準拠ノート』の問題が端末上で解答できます。手書きでの入力にも対応しています。

■ 先生は管理機能で進捗状況や提出状況、解答結果を Web 上で確認できます

これまで『準拠ノート』の回収・検印・採点・返却にかかっていた時間を大幅に短縮することができます。

また、提出状況や解答結果は表計算ソフトで取り込みやすい CSV で出力することができるため、評価・評定の材料の一つとして活用することも可能です。

導入校からは、『準拠ノート』を書籍版からクラウド版にしたことで業務負荷の軽減になったという声が続々と届いています。先生方の働き方改革の一助となることが期待できます。



ダッシュボード画面で手軽に提出状況や平均正答率を確認できます。

おすすめポイント！

導入されている先生の声

体験版はこちらから | 詳しくはWebサイトをご覧ください。



一目で課題の提出状況が確認できるのは助かっています。提出物管理のワークロードが減り、生徒の学習状況の把握（何回学習に取り組んだのかなど）という、より本質的な提出物確認に時間が割けるようになりました。

中央大学高等学校「地理総合」担当者

中学校の地理で授業前の課題として活用し、基礎知識の習得に大きな成果を挙げてきました。生徒たちの学力や進度に合わせて、クラスごとに課題設定を変えられる機能も有用です。その後、高校でも導入しました。

郁文館中学校・高等学校「地理(中学)」担当 白井康之先生

デジタルにして正答率や解答内容まで見られるようになり、提出状況だけでなく取り組み状況を含めて評価できるようになりました。正答率も評価に含めることや繰り返し解いてよいことなどの指導により、真面目に取り組む生徒が増えました。

常翔啓光学園中学校・高等学校「地理総合」担当 本岡伸一先生・石橋孝成先生

繰り返し解けることがデジタル教材の最大のメリットです。「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映することを生徒に伝えた上で自主的に利用させ、取り組み状況を見て個別にフォローするようにしています。

高崎健康福祉大学 高崎高等学校「地理総合」担当 北田初男先生

探究科目での大学入試対策には

『デジタル実践問題集』(地理総合・地理探究、歴史総合・日本史探究)

NEW!

■ 今までになかった、シン・スタイルのデジタル問題集

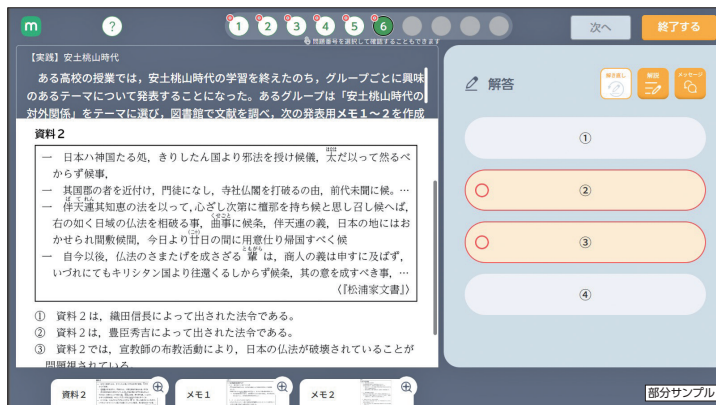
「探究科目は、『教科書準拠ノート』より入試を意識した演習ベースの授業がしたい。でも使える問題集がなく探している」という悩みをお持ちの先生は多いのではないのでしょうか。その声にお応えするのが、新商品『デジタル実践問題集』です。

本問題集は「教科書や資料集を読めば解ける」レベルの大学入学共通テスト(以下、共通テスト)形式のオリジナル問題を提供しているので、授業で単元が終わるごとに該当する単元の課題を解いていけば、自然と力を付けることができます。

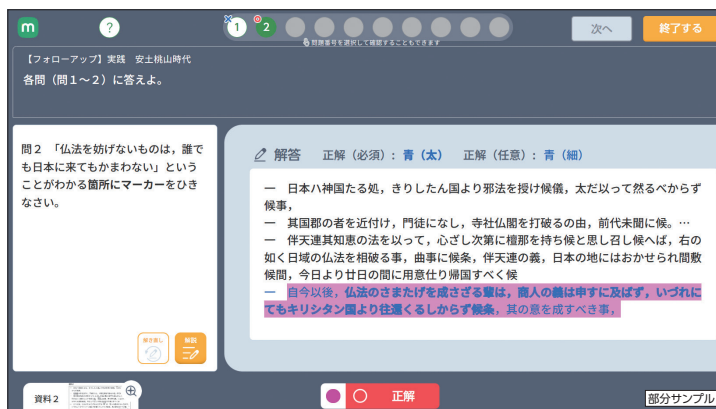
授業で習った内容が共通テストでどのように問われているのか理解した生徒は、大学入試でアウトプットするためのインプット方法=読解テクニックを日常の学びの中で習得することができます。

一方、先生方は『デジタル準拠ノート』と共通の教師用管理画面から、生徒の学習状況(進捗・正答状況など)をリアルタイムで確認することができます。各生徒の正答状況=苦手傾向を、実力テストや定期考査を待たずに把握できるため、授業改善に寄与でき、受験指導を一步先に進めることができます。

さらに、大手進学塾講師の先生方によるオリジナル模試も収録しています。共通テスト直前期にはこちらで力試しをすることも可能です。



実践問題は、共通テストと同形式で、複数資料を参照しながら解答する問題です。



フォローアップ問題は、デジタルならではのタップ、マーカー機能を用いて、解答を導くプロセスや類似問題を解くための読解テクニックを身に付けることができます。

おすすめポイント!

開発に携わった先生の声

体験版はこちらから | 詳しくはWebサイトをご覧ください。



【地理総合】 【地理探究】担当

共通テストの資料問題は、ご存知のように「これは生徒にとって初見の資料だ!」というようなものが非常に多いです。しかし、そうした問題であっても、問われる内容自体は基礎的なものです。そこで、生徒には自分の知識をきちんと引き出せば、初見の資料でも解けない問題はないと伝えることが重要だと思います。『デジタル実践問題集』では、教科書や資料集に載っている生徒たちが慣れた資料を使って、基礎的な知識があれば解ける問題を作るよう、意識して取り組みました。授業で単元が終わるごとに、「問題集もやってみて」と共通テストを意識した演習をすぐにやらせれば、単元のポイントとなる授業内容が吸収しやすいと思います。教える側としては、誤答傾向を把握し対策を立てることが、定期考査を待たずに可能となるのも、デジタル問題集の大きなメリットだと思います。

東京都立翔陽高等学校 山本葉月先生

【歴史総合】 【日本史探究】担当

共通テストの歴史問題に関して必要不可欠なのは基礎となる知識です。きちんとした知識を身に付けた上で、資料問題への対応も可能となります。例えば、正答率の低い例として年代順配列の問題がありますが、一問一答的な用語として出来事を覚えるだけでは解けないので、誰が発したもののなのか、その時代背景はどうだったのかということも意識して学ぶことで、幅広い応用ができるようになるでしょう。『デジタル実践問題集』は、基本的に授業の復習用を想定しています。生徒には授業のあと実践問題に取り組んでから、「問い」を意識し、疑問を持って教科書に立ち返り、その記述内容を確認してもらうという一連の流れの中で、基礎から実践までをしっかり身に付けてもらえればと思います。デジタルはこうした流れを意識しながら、繰り返して取り組むことができます。そこがいちばんの強みだと思います。

清風南海中学校・高等学校 蒲谷和敏先生